

平成二十五年度における財務情
報・事業報告します。また自己評
価・学校評価書も掲示して情報公
開します。

(期間)平成二十六年五月二十九日～七月三十一日

(学) 藤田学園 藤田幼稚園

理事長・園長 藤田道信

平成25年度		事業報告	
事業内容	教育事業の推進	園児ひとり一人の成長発達の課題を踏まえ教育内容を構成し実践するよう努力した。集団生活の中で様々な体験を積み生きる力の源泉を育む活動に努めた。家庭に対して、子育て支援の充実とともに家庭教育の重要性を伝えるよう努力した。幼児期に大切な育ちについて保護者そして地域社会へ訴え事業を実践した。富士地区林業研究会・富士常葉大学生との共同事業を始め、推進を図り親子木工教室や自然観察学習をひだまりの森を十分に活用し、園児の健やかな成長・家庭の絆を育む活動ができた。広報を充実し、幼稚園の理解を深めらる事業(教育説明会)を実施した。	
	決算の状況	①無駄な支出を避け、留保金の確保を念頭に施設設備の整備・修繕を進めた。(舞台の購入) ②園児の教育活動にかかわる事業経費を重視した運営を行った。 ③ひだまりの森の整備においては長期的な視点で経費を投入した。 ④健康・衛生面など危機管理上の必要経費を消費した。 ⑤園児の福利厚生について予算執行した。	
	具体項目	内 容	
1	教育事業	教員の資質向上 個に即した教育	幼児の育ちについて実践を通じ互いに高めあう。また園内研修会を進めた。積極的に研修会に参加し資質向上に努めた。 園児一人ひとりの心の育ちを根底に、身体能力、思考力、感性を育むよう、実践し、また、支援を必要とする園児には専門家と協力し、保護者との共通理解を深め適切な指導支援を進めた。
2	研究事業	研究活動 自己点検評価	園全体の教育テーマを決め、そのテーマから広がる創造していく総合教育を展開し、思い出展覧会に表現した。 教師自らが、自己点検・評価をし自己研鑽に励み、学校評価や保護者アンケートからより良い教育運営が図られるよう自己の資質向上と園運営の充実を図るよう努力した。
3	地域連携事業	積極的な参加 幼少連携	地域コミュニティーの主催する行事、防犯防災などの事業、地域教育機関との連携した。文化祭・消防祭りなどに参加した。淵っ子クラブなど教員が地域に貢献をした。 小学校との情報交換の充実。子ども達の交流など機会を使って園児と児童、教員間の交流を図った。また進級児の教育的情報交換を図り、スムーズな進学ができるよう努めた。
4	施設設備	教育研究機器備品整備 その他	園児の教育活動を充実と広報する為の設備整備をした。100インチスクリーン・舞台・PC2(光通信)を設置導入した。 必要に応じ、施設設備の対応を図ると共に、防災備蓄品の確保充実をPTAと共に進めた。
5	管理運営	事務・園務運営 労務環境	事務内容の分担性により、事務の効率化と確実性を図り情報公開を実施した。Hpや掲示板使用。 女性の働く場であり、家庭をもちながらの労働環境を整備し、教育の充実・子育て支援の充実に関わる相乗効果を図った。また、現在い、育児休業をしている女子職員がある。
6	財務関係	留保金の確保 思慮深い積極性	無駄な経費を削減するよう努め留保金の確保を行い、将来の安定に努めるが園児数減で収入減と教員の処遇に課題がある。しかし、教育内容の充実と、園児の福利厚生経費は確保した。最低でも減価償却額は確保していくよう努力した。 教育環境の充実と活気感を持ち、選ばれる幼稚園を目指し、思慮深い積極性をもった財政運営につとめる努力に心掛けた。子ども子育て支援新制度の動向で今後幼稚園の経営について思慮深く注視し考察してきた。

平成25年度 学校法人藤田学園 藤田幼稚園 情報公開

1.財務状況

【資金収支計算書】

科 目	決 算 額
収 入 の 部	
学生生徒等納付金収入	44,876,400
寄付金収入	78,000
補助金収入	41,086,000
資産運用収入	301,914
資産売却収入	0
事業収入	15,527,455
雑収入	830,447
借入金等収入	0
前受金収入	1,920,000
その他の収入	1,470,161
内部資金収入	0
資金収入調整勘定	△ 1,805,387
前年度繰越支払資金	33,597,152
収入の部 合 計	137,882,142

支 出 の 部	
人件費支出	68,606,444
経費支出	28,913,731
借入金等利息支出	0
施設関係支出	588,000
設備関係支出	1,918,140
資産運用支出	5,521,425
その他の支出	1,807,413
内部資金支出	0
資金支出調整勘定	△ 503,387
次年度繰越支払資金	31,030,376
支出の部 合 計	137,882,142

【財産目録】

科 目	金 額
基 本 財 産 計	266,390,299
運 用 財 産 計	31,275,763
資 産 の 部 合 計	297,666,062
固 定 負 債 計	3,591,000
流 動 負 債 計	3,539,306
負 債 の 部 合 計	7,130,306
差 引 純 資 産	290,535,756

【消費収支計算書】

科 目	決 算 額
収 入 の 部	
学生生徒等納付金	44,876,400
寄付金	78,000
補助金	41,086,000
資産運用収入	301,914
事業収入	15,527,455
雑収入	830,447
帰属 収入 合計	102,700,216
基本金組入額合計	△ 2,506,140
消費収入の部合計	100,194,076
支 出 の 部	
人件費	68,606,444
経費	34,509,906
借入金等利息	0
資産処分差額	0
徴収不能額	80,300
本 部 負 担 金	0
消費支出の部合計	103,196,650
当年度消費支出超過額	△ 3,002,574
前年度繰越消費収入超過額	△ 12,952,144
翌年度繰越消費支出超過額	△ 15,954,718

【貸借対照表】

科目	本年度末
資 産 の 部	
固定資産	262,106,299
流動資産	31,275,763
資産の部合計	293,382,062
負 債 の 部	
固定負債	0
流動負債	2,783,306
負債の部合計	2,783,306
基本金の部	
第1号 基本金	298,839,802
第4号 基本金	7,713,672
基本金の部合計	306,553,474
消費収支差額の部	
当年度消費支出差額	△ 3,002,574
前年度までの繰越消費収支差額	△ 12,952,144
消費収支差額の部合計	△ 15,954,718
負債の部、基本金の部、及び消費収支差額	293,382,062

園のコメント

25年度は帰属収支差額の比率がマイナスとなり財産の食いつぶしが始まった。人件費を変えず、教育経費は充実した進めたい納付金が減るがしかし持続性を図る為にはより努力をしなければならない。また納付金にみる人件費は拡大している、本学の納付金は確かに市内の私立幼稚園においてではもっと低い事もあるが、創始者の経営理念の保護者負担の軽減のもと、よりよい教育を目指す志をもって学園運営を進めることが使命と自負している。その為には有能な人材の確保が重要であり、現在はここ数年昇給なく身を投じて熱心に教育に打ち込んでくれる教職員に感謝している。また経費においては園児に還元するもの教育活動に直接かわる経費は充実させ、その他の補完的経費についてはそれぞれに知恵を使い、きめ細やかに節約節減に取り組んでいくよう努力していく。

平成 25 年度 学校関係者評価書及び自己評価総評

(改善方策及び結果公表シート)

平成 26 年 3 月 2 日 まとめ

1 幼稚園の教育目標

人間の一生で無限の可能性に富み、人格形成に大きく影響を及ぼす幼児教育は何事においても大切な時期である。集団生活の中で幼児としてより多くの遊びの中で体験を積み重ね「富士山のように」1.じょうぶでねばりつよい子 2.ゆたかなこころの子 3.どりよくしてつくりだしていく子 4.すすんでとりくめる子を目指し、やがて次代を担う、たくましい人間、豊かな心をもって大きくはばたく人間育成を目標とする。

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 幼児ひとりの成長に応じた教育保育が実践されているか。
- 教師は自己研鑽に努めているか。また、各種、研修会に積極的に参加しているか。
- 保護者との理解を深め、教育活動を通じ子どもの育ちを共有した活動を実施しているか。
- 地域社会の人々や自然に関わり、園児達が地域の中で認められ守られる活動を推進しているか。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理 由	関係者評価
① 保育の計画性	B	教員の園務は分掌化されており組織的である。教育計画は月案・週日案を作成しているがマンネリ化に留意し園児の姿から計画を進めるよう努力をする。	B
②保育のあり方 幼児への対応	B	幼児ひとり一人の発達課題を的確にとらえ、その子なりの成長の支援・指導をするよう努めた。活動の達成度ではなくその心情を如何に育みかに力点視点を置いて保育の在り方を十分に留意してきた。	B
③教師として資質 能力、適正等	B	研修会への参加は園児の保護が何よりも重要であるため、日常の保育中の参加はたいへん困難ではあった。よって毎日が研鑽と自覚するため日々の保育の反省、総務部による月目標を決め、全職員で目標達成に努めた。	B
④保護者への対応	B	保護者からの苦情は無いが、日々の詳細な子どもの様子を伝えられない事が多い。また教員個々の対応で個人差があることがあるので、物事の情報を共有化し平等に対応できるようにしたい。	B
⑤地域の自然や社会との関わり	B	幼稚園の資源である、人材・施設を地域に提供し貢献を図っている。ひだまりの森を中学校 PTA/小学校 PTA の各種事業に貸出し、大淵地区の教育活動に貢献できた。また、富士常葉大・富士林業研究会と協賛し親子木工教室や自然観察教室を開催した。	A

⑥研修と研究	B	園内研修の時間の確保が難しい。子育て支援や幼稚園が担う事が増大している。教員の就業時間にその研修研究の時間の確保が課題である。例年の課題である。	B
外部アンケート 経営評価		外部アンケートは2月音楽会で回収よってその後集計。同じく、経営的評価も最終補正等から3月の役員会で報告する。	

結果・評価 A 十分達成されている B 達成されている
 C 取り組まれているが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

園目標である「つながりあう心・ワンハート」と、教育テーマ「ひだまりの森」を通じ、保育実を進めるため教育計画を進めた。また3学期開催の思い出展覧会には、目標・テーマの実践結果を展示し、体験・経験が子ども達の育ちにつながっていること示した。また大淵地区行事に積極的にかかわり、地域の中で園児達を見守り育てていけるよう、幼児教育の重要性を伝えながら地域貢献を進めた。また現在も東日本大震災から岩手県大槌町のみどり幼稚園とのつながりを大切にこれからもできる事を継続していきたい。幼稚園教育を実践するにあたり、教職員研鑽・保護者理解・地域貢献・時代ニーズは大きな要因であるが、普遍であるものも大切にしていける事を認識した。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教職員の資質向上	園内研修に保護者対応、子どもを見る目、保育感について研鑽する。 チーム保育により教員同士の信頼をもとに互いに高め合うようにする。
ひだまりの森の教育活動の充実と地域貢献	環境教育の実践の場として大いに活用する。また地域社会とのつながりの強化を図り『ひだまりの森』での実践を考えていく。
こころの教育	全ての出来事が心の営みであり、幼児期に心の育ちにとって重要な時期であることを教師・保護者が自覚し、子ども達の心身の健やかな発達をうながす。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

- ・今も昔もかわらない雰囲気があり安心できる。
- ・幼稚園の先生方が一生懸命子どもを見守ってくれている、保護者もそのことへ感謝し互いにささえあっている事が大事だと思う。
- ・施設面もそろそろ修繕が必要な箇所もあり、園児の遊具などもそろえていってほしい。
- ・ひだまりの森は大きな効果があがっているようでうれしい、地域の中でも多くの方に期待が広がっていることを聞く。
- ・園児の人数が少なくなっている。教育内容ではないと思うが、地域の子どもの数や、親御さんのニーズを知り幼稚園の運営を考えていくことが大切だと思う。